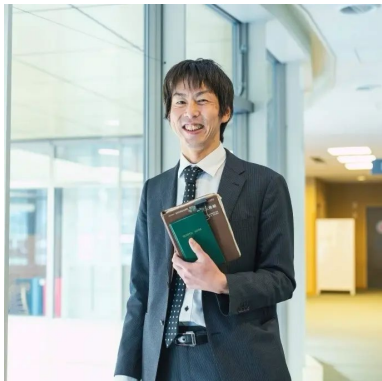


飛騨みやがわ考古民俗館

岐阜県飛騨市の山あい位置する「飛騨みやがわ考古民俗館」では、令和6年度、本事業を活用し、ふるさと納税を用いて茅葺き民家修復のための寄附を募ると同時に、支援者のデータ分析に取り組みました。専門家のアドバイスのもと、徹底的な現状分析と施設の特徴に合った的確な施策を実施した結果、飛騨市や民俗館の魅力が全国に伝わり、**事業開始前の約2倍**(令和7年10月末時点)の寄附を集めることができました。今回は、本事業の受け入れを推進した学芸員の三好清超さんにお話を伺いました。



学芸員の三好清超さん

名称	飛騨みやがわ考古民俗館
所在地	岐阜県飛騨市宮川町塩屋
来場者数	848人(2024年)
館種	歴史・人文
設置者	市区町村

漠然とした悩みを言語化できないもどかしさ



民俗館の敷地内に建つ、築150年の茅葺き民家「旧中村家」

- ・ **事業に応募したきっかけは何ですか。**
三好：過去に、資料のデジタル化にあたり総務省の「デジタル人材派遣」事業を活用した経験がありました。本事業の案内を拝見し、ファンドレイジングの面でも支援していただけるのではないかと期待を持ったため、応募しました。
- ・ **事業に応募する時点で感じていた課題には、どのようなものがあったのでしょうか。**
三好：これまでも、館の規模に比べれば非常に多くの方に有形無形のご支援をいただけているという実感がありました。ですが、なぜ多くの方に支援していただけているのかという背景が不透明である点を課題として認識していました。この「なぜ」が言語化できれば、経済面に限らない多様な形で継続的にご支援いただき、自治体の中でも予算化しにくい「文化・歴史の保護」を次代に継承していけるのではないかと考えていました。

徹底的な分析に裏打ちされた効果的なアクション



「旧中村家」の内観。飛騨の人々の山間での生き方を学ぶことができる

- ・ **実際に、どのような支援を受けることができましたか。**
三好：すぐにアクションに移るのではなく、私たちを取り巻く現状分析にかなりの時間を割いていただいた点が印象的でした。支援者の属性分析や、現地の支援者へのヒアリングを行っていただくなど、課題解決のために我々のバックグラウンドを理解しようとする工夫をしてもらったように思います。そういったきめ細やかな支援のおかげで、**なぜ寄附をいただけているのか、なぜ支援いただけているのかについて要因分析の上で言語化**できました。
- ・ **支援を受ける中で得た気づきはありますか。**
三好：専門家の方のアドバイスを受けながら、自分たちで支援者の方々の属性分析を実施した結果、10回以上支援してくださっている方や、中には20回以上支援してくださっている方がいることに気づきました。回数、地域、時期など専門家の方に統計としての視点を与えていただいたうえでデータを見渡してみると、**寄付者のデータを単なる一覧表として終わらせることなく、数多くの新たな発見を獲得**することができました。私たちと同じように、データ自体は集めているけれどもうまく活用できていないという施設は全国にあると思います。是非本事業に参画していただき、専門家のアドバイスなどを得ながら、宝の山であるデータの活用に取り組んでほしいと思います。

飛騨みやがわ考古民俗館

成功の秘訣は「役立ちの実感」：まったく新しい視点からの工夫



「旧中村家」の中では、子供たちが参加できるアクティビティも行われている

・寄付が集まった要因は何だとお考えですか。

三好：専門家のアドバイスを踏まえて、四半期ごとに感謝と成果報告のメールを送付し、**今年(2025年)10月末時点で、前年比195%ものご支援を達成**することができました。ふるさと納税は今年(2025年)9月を区切りに制度が変わったので、駆け込みでの寄附をいただいたという側面もあるのかもしれませんが、専門家の方の具体的なアドバイスがなければここまで伸ばすことは難しかったと感じております。

・寄付を募るにあたり直面した課題はどのようなものだったのでしょうか。

三好：ふるさと納税のメニューにただ載せるだけでは寄附が集まるわけではないということですね。この点について専門家から助言をいただいたおかげで、責任者である私の顔をしっかり出すことや、経済面以外の支援の形をできるだけ広げる工夫をしよう、ということを仲間と話し合っていて決めることができました。私たちの現状を踏まえた工夫が今回の成功に繋がったのではないかと考えています。各館の皆様も様々なご事情を抱えておられるとは思いますが、どのような館であっても、専門家の方の助言を受けながらそれぞれの館に合った工夫をすることが求められるのではないのでしょうか。

必要なのは施設の規模ではなく一歩を踏み出す熱意

・支援を受けて内部で変化したことはありますか。

三好：「茅葺屋根の修復」をふるさと納税のメニューに入れることについて、当初は市の財政当局からは、小規模館ということもあり集金力が課題であると指摘されている状況でした。しかし、現場の修復への熱意やマネタイズしようとする姿勢や工程を次第に評価していただけるようになりました。特に成果が出初めてからは、**以前と比べても予算編成に関して市の財政当局に前向きに検討**してもらえるようになりました。また、茅葺屋根の修復時にも、当初の予算では充足できないトラブルが発生しましたが、市の財政当局からふるさと納税をベースにした予算の工面についてアドバイスをもらうことができ、無事修復を完了することができました。今後も文化財をベースにした**ふるさと納税のメニューの充実について、市の財政当局をはじめとした庁内各局と前向きな協議**を進められると感じています。

・支援を受けるにあたって、小規模館であることによるハードルを感じましたか。

三好：小規模館では、どうしても業務が集中してしまう側面があり、支援を受けるとなると担当者の単純な業務量が増加するため、「新たなことを始める」ことに対して、心理的にハードルを感じてしまう人は多いのではないかと思います。ただ、この事業では、事務局の方も報告書の記入などの業務が負担にならないよう工夫してくださっているので、その分の時間をデータ分析にかけることができ、成果につながったのではないかと考えます。それに加え、好事例を交えた説明会に参加してから応募ができたことや、館の適性を見極めて最適な専門家とマッチングしていただいた点もありがたかったですね。

・現時点で応募のハードルを感じている方々に、伝えたいことはありますか。

三好：困っている館ほど、一歩踏み出して専門家の支援を受けたほうが良いと考えています。専門家に助言をいただきながら、確かなロジックや様々なデータに基づいた分析をすると、**これまで現場の経験論・感覚論に依っていた施策との効果について明確な違いを実感**します。私たちも元々は曖昧な課題意識しか持っていませんでしたが、伴走していただいた専門家による的確なアドバイスや客観的なデータ分析によって非常にクリアになり、大きな成果を上げることができました。今時点で漠然としたイメージしかお持ちでない方でも、何かを変えたいと感じているのであれば、是非本支援を受けることを検討してはいかがでしょうか。

<参考：派遣された専門家紹介>



・鎌倉幸子氏

クラウドファンディングを含むファンドレイジングの企画・運用支援、SNSを活用した広報・コミュニケーション戦略策定と運用支援、社会的インパクト・マネジメントや組織基盤強化などのコンサルティングを専門としている。現在までに約 100 件のクラウドファンディングの伴走支援（支援総額2億7千万円）を行った経験を有する。

大阪府立近つ飛鳥博物館



名称	大阪府立近つ飛鳥博物館
所在地	大阪府南河内郡河南町
来場者数	72,663 名（2022 年度）
館種	歴史
設置者	都道府県
法区分	登録博物館

課題

- ・考古資料を中心とする館蔵資料について、**デジタルアーカイブ化を推進したいが、方法について技術的にどのような選択肢があるか理解できていない**という課題あり

専門家概要

- ・歴史資料のスキャニングを得意とするデジタルアーカイブ事業者

画像：大阪府立近つ飛鳥博物館
HPより引用

支援の内容（詳細）

1日目：現地

- ・【博物館】DA構築の希望と課題を共有
- ・【専門家】フローや公開方法を説明
- ・【双方】収蔵品の確認後、三次元データ化と公開方法を議論

2日目：オンライン

- ・【専門家】三次元計測とモデル化の講義を実施
- ・【博物館】公開方法や情報選択を相談
- ・【双方】次回に向けて、博物館が手順と役割分担の素案を作成する旨で合意

3日目：オンライン

- ・【専門家】無料ソフトウェアの説明を実施
- ・【博物館】デジタルアーカイブの手順や役割分担、データ管理方法について相談

支援結果

- ・伴走支援の結果、デジタルアーカイブ構築、三次元計測とモデル化、公開のそれぞれに対して、**館にとって最適なシステムを特定することができた**

事例の詳細はこちら

https://www.bunka.go.jp/seisaku/bijutsukan_hakubutsukan/shien/kyouka/pdf/94406801_01.pdf

岐阜かかみがはら航空宇宙博物館



画像：岐阜かかみがはら航空宇宙博物館
HPより引用

名称	岐阜かかみがはら航空宇宙博物館
所在地	岐阜県各務原市
来場者数	260,134 名（2024 年度）
館種	理工
設置者	都道府県・市町村 ※共同運営
法区分	指定施設

課題

- HP や SNSをベースに対外的な広報活動を行っているが、SNSはフォロワー数が伸び悩む状況
- 2024年度のテレビ取材は 8 回（うち県外からの取材は 2 回）と、テレビやラジオについても伸び悩んでいる状況

専門家概要

- 広報広告に関する知見と実績を有する専門事業者

支援の内容

1日目（現地）

- 【博物館】施設内展示品の確認と案内
- 【双方】SNS使用の目的確認・現状分析の共有
- 【専門家】聞き取りを踏まえて提案
- 【双方】提案に関する意見交換と質疑応答

2日目（オンライン）

- 【専門家】SNS投稿作業の困難に対してのアドバイス、アナリティクス分析結果のフィードバックと改善アドバイスを実施
- 【双方】HP解析についてトレーニング

3日目（オンライン）

- 【双方】SNSの企画展開、アナリティクス分析のフィードバック、PR活動の具体的なアクション方法について意見交換
- 『支援結果』
- マスメディアに取材されるような方法（打ち手）についても整理をすることができた
- 今後実施すべき施策の内容を策定することができた

事例の詳細はこちら

https://www.bunka.go.jp/seisaku/bijutsukan_hakubutsukan/shien/kyouka/pdf/94406801_01.pdf

アートギャラリーミヤウチ



名称	アートギャラリーミヤウチ
所在地	広島県廿日市市
来場者数	2134 人（令和 6 年度）
館種	美術
設置者	私立
法区分	指定施設



画像：アートギャラリーミヤウチHPより引用

課題

- 企画展やイベントを充実させ、来館者の鑑賞体験を深める試みを進めているが、主な財源である賛助会員を獲得するための営業活動が十分にできていない

専門家概要

- 広報・ファンドレイジングの実績を多数有する、ファンドレイジングコーディネーター

支援の内容

1日目（現地）

- 【専門家】会費募集と寄付の講義を実施、他館事例や課題をリスト化
- 【博物館】展示案内と使用ツールを確認
- 【専門家】感謝を伝える活動の講義を実施

2日目（現地）

- 【専門家】支援第 1 回の内容を踏まえ、博物館・専門家が博物館の特徴や強みを書き出すワークショップを実施

3日目（現地）

- 【双方】館の紹介のための情報整理を実施
- 【双方】賛助会員特典内容を見直し、特典表の素案を作成

支援結果

- 財団の取り組みや特徴を理解することが寄付集めに重要であることへの理解することができた
- 会員制度の見直しと特典プランの作成が行われ、パンフレット更新や活動の見直しへも繋がった

事例の詳細はこちら

https://www.bunka.go.jp/seisaku/bijutsukan_hakubutsukan/shien/kyouka/pdf/94406801_01.pdf